グローバル化における上海の文化発展に関する問題および対策

郭　潔敏

21世紀前後の流行語とも言える「グローバル化」は，西川先生が指摘されたように，世紀転換期の歴史的大変動の諸相を含め，たとえば資本の自由化，外資系企業の進出，インターネットや携帯電話の普及（IT革命），移民や外国人労働者の増加などです[1)]。上海は国際大都市として，一層グローバル化の波に巻き込まれ，社会変貌が目覚しいことで，全体から見れば，いくつかの特徴が見られます。たとえば，第一は，都市情報化レベルの向上，世界との瞬間連結能力です。グローバル化の大勢に応じようとして，上海市政府は世界との瞬間連結レベルを重要視し，力強く科学技術を発展させ，都市情報化を推し進めてきました。中国インターネット情報センター（CNNIC）および上海市インターネット協会の『2005年中国インターネット発展情況統計報告（上海報告）』によれば，2004年末までに，上海市のネット人口は441万人，上海市総人口の25.8%です。すなわち，上海人の四分の一は即時に外部世界と接触したり，コミュニケーションしたりすることができます。しかも，このようなネット人口は日増しに増える傾向です。

第二は，外来人口の比率が拡大し，社会構造を変えることです。上海は以前から移民都市として知られていましたが，1949年新中国誕生以来，厳しい戸籍管理制度によって，他所からの人口移動は全面的に制限されました。1980年代に入ると，グローバル化を背景に，中国は改革開放の政策を取り始め，上海に流入した地方出身者は年々増加して，上海は再び移民時代を迎えました。統計によると，2005年上海の流動人口は581万もあり，そのうち就労者は375.09万人に達します。この数は，上海の労働者全体の39.5%を占め，すなわち５人に２人は上海以外の出身者となりました。

もう一面は，グローバル化時代の「国境越え」行動により，上海に長期滞在する外国人も増える一方です。たとえば，2005年上海には約4,500社の日系企業が進出，約34,000人の日本人が住み，中国最大の日本人コミュニティーを形成しています。短期滞在者も同様であり，2006年９月，中国ビジネス旅行フォーラム予告会において，上海市観光委員会が明らかにしたところによると，今年１～８月で，上海への入国者数は391.53万人となり，同期比5.3％アップし，そのうちビジネスマンが60％を占めております。これは大量の外資系企業が中国に進出したことで，中国ビジネス旅行市場を急速に成長させたわけです。

このような持続的発展をしてきた社会動向は，言うまでもなく上海の都市文化に大きな影響をもたらしました。ちょっと纏めてみれば，一つはインターネットや多くの流動人口に伴い，外来文化が激しい勢いで進入してきて，上海の文化は次第に変容し，地元の特色を失うことになるかということです。実は，外来文化の進入は悪い事ではない（それにより，地元の文化は更新されること）のですが，現在進行中のグローバル化は，世界を均質にする力を持って作用

し，歴史上華やかな都市的風貌や豊富な人文資源を持ち，「海派文化」（上海流文化）を育んだ上海は，国際的な都市として発展し，他の都市よりいち早くしかも多く海外の文化を吸収してき，西洋文化移入の窓口となったのと同時に，地元の文化的特色を失う危険に直面していると考えられるほどです。

具体的な例を上げれば，第一に，建物の西洋風。上海には4500ほどの高層ビルあるいは超高層ビルが林立していて，上海特有の石庫門建築の一戸建て（1920年代～1930年代に西洋の建築から影響を受けて作った「中西（中国と西洋）合壁」のものですが，時間の流れにつれて，他にない上海独特の代表的な民居になった）はあまり見られなくなりました。第二に，上海語の「弱化」。外来人口がますます増えるに伴い，上海弁は使う範囲がだんだん小さくなり，特に上海弁が話せる子どもは減る一方です。第三に，西洋風俗の定着。たとえばクリスマスやバレンタインデーは，多くの上海人に受け入れられ，若者はいっそう熱中しています。これに対して，七夕とか中国の伝統的祭りはあまり人気がありません。こうなると，上海文化の深くにあるべき「中国味」或いは「上海味」は薄くなってくるでしょう。

上海特有の石庫門民家

もう一つは，外来人口を主とする「多種類文化生態（集団）」が形成されること。前も述べたように，上海では外来人口の比率がどんどん拡大し，その中には周辺からの出稼ぎ労働者がいれば，「国境越え」行動をするビジネスマン（或いは資本家）や旅行者もいます。それぞれ違う文化背景を持つ人々は，互いに民族や言語や生活習慣や消費要求が異なり，自然と「多種類文化生態（集団）」を成して，近年来上海の都市構造の重要な要素になりました。また，都市中心部の高いビルにある会社や事務所に対して，外資系企業や民間企業が数多く郊外の郷や鎮に集中しています。それゆえ，その地域の外来人口がかなりの比重を占めています。たとえば，上海市郊外の馬陸鎮では，総人口10万人のうち6万人と，外来人口の数が地元民を上回りました。出稼ぎ労働者の多くは長年にわたり民間住宅や工場が提供する粗末な作業宿舎に寝泊するなど，衛生・居住条件は悪く，管理も行き届かないところが多いです。彼ら（辺境からやってきた少数民族も含める）は高い年給の「ホワイトカラー労働者」とは，もちろん違う「文化集団」となりました。

市中心部の高いビルと出稼ぎ労働者の生活

こうして，いままで割合に単一的な上海の都市文化は，グローバリゼーションが進むなかで，ますます多様性に富み，地元の「主流文化」を弱めて発展してきました。このように，新しい時代に入った現在，経済発展が進んできた上海は，どういうふうに「多種類文化生態（集団）」の共存を考えて，新しい文化空間を確立するか，そしてどういうふうに上海の都市文化を推し進めていこうかというような問題が問われていると思います。

歴史的に見れば，上海は絶えず外来文化を吸収して融合し，「海派文化」と称された文化流を成しました。即ち，外来文化の進入によって，上海は地元の文化が弱くなると同時に，新しい上海文化が育まれたので，文化の特色というものは持ち続けてきたのですが，現在の問題というと，グローバル化における激しい都市競争の中で，文化の発信力など「文化力」がきわめて重要で，もしそれが弱められれば，一流の世界都市になることはできないでしょう。ですから，世界の人々に対して，上海はどのように映り，上海の魅力とは何か，そして海外に十分に発信しているのかということを考えなくてはなりません。そして，力を入れて上海の地元文化を保つべきです。序に，「世界都市競争力レポート（2005～2006年）」は，最近中国や米国，カナダ，英国など8カ国の学者により編纂され，四川省成都で発表されました。その中，「世界都市総合競争力・トップ110」のうちトップ3は，ニューヨーク，ダブリン，ロンドンで，中国の香港や台湾，北京，上海はそれぞれ第19位，第48位，第69位，第70位でありました。そこから，中国本土の都市の競争力はまだ弱く，国際大都市との格差があることが分かります。

このため，国際大都市である上海の「ソフトパワー」を求める声は高いです。開放改革以来，上海では「一年に一つの様子，三年に大きな様子」で，今までにない速いスピードで変化してきましたが，国際大都市に相応しい個性的魅力はかなり衰えました。周知のように，魅力のない大都市は「明日の花」のように，持続的な競争力を持つことができなく，結局ほかの大都市のレベルに落ちてしまうのではないかと思います。ですから，「文化力」によって上海の地位を向上させるべく，上海を独自性，開放性，多元性，創造性に満ちさせることによって，文化の香り高い，魅力にあふれて，世界に誇れる文化都市になるように努めなければなりません。「文化都市」とは，文化を集積，創造し，その文化情報の交換機能を有する都市を指します。

次に指摘したいのは，アメリカを中心とする西洋文化はその強さを利用し，グローバル化において，世界文化を均質化しようとする傾向があるということです。それに対し，多くの国か

ら「文化帝国主義」や「文化侵略」（新植民地主義の一つと言えよう）など批判の声はよく耳にしましたが，さらに進んで大きく異なる文化の相互理解や尊重を提唱し，多文化主義を主張するのは大事なことだと思います。国際大都市にとって，グローバル化の中で，様々な矛盾を孕む都市文化の諸相を歴史的視野の中で検討し，都市の個性を活用し，その輝きと伝統を誇る，品位と活気あふれる「魅力ある」国際文化都市の再構築へ向けること，それこそが都市文化及び多元世界に貢献するものでしょう。

このように考えて，現に上海ではつぎのように都市の文化発展を推し進めています。

1. 伝統文化の振興

ご紹介したように，上海ではインターネットや多くの流動人口に伴い，外来文化が激しい勢いで進入してきたので，上海の文化はだんだん変容して，地元の特色を失いそうになる傾向です。それゆえ，上海市政府は大いに伝統文化を振興しようとしています。具体的措置としては，多彩で内容豊富な上海観光祭，及び上海中国国際芸術祭等の祭事を催し，国内外の数多くの観光客を魅了し続けているとか，上海の特色を高揚する各種の特色商店街を約50ヵ所作ったなどです。例えば，美食街，娯楽街，商店街，文化街などあり，そして時代に分けて第一代，第二代と第三代のものがあります。近年，第三代特色街がひそかに出てきて，ものを売るより，意匠，体験とサービスを売り物にするようになりました。たとえば，大連路にある長さ400メートルの「海上海特色街」には，海上講堂，海上劇場，海上会館などがあり，おおぜいの意匠デザイナーたちがここに滞在し，仕事をしています。盧湾区の泰康路文化街には，約50名の中国芸術家と23名のデンマーク，フランスなどの国外から芸術家が進出して，ギャラリーと芸術品の店を開きました。

また，昔の子ども時代の遊びも再開発したり，「上海民族ゲームの決勝大会」を催したりしました。次の写真は民族ゲームの一つである「鉄の環を転がして走る」です。

2．多元文化の共存

中国の開放改革前は，上海は都市文化が割合単一でした。と言うのは，何十年もの厳しい戸籍制度により，他所の人は上海の市民になるのが難しく，外来文化が進入する道はほぼ閉ざされていたからです。いま流動人口を581万持っている上海には，「多種類文化生態（集団）」があり，異なる文化集団の要求を満足させ，より進んだ多元的文化政策を考えなくてはならないところにきていると言えるでしょう。

実際，これまで上海は多文化共生社会作りに努めてきて，たとえば市政府は少数民族が平等の立場に立って行政に参加し，上海市で選ばれた「市人民代表」の中，少数民族代表は全代表の１％～2.9％を占めるべきであるというと規則を作りました。また，1994年12月，上海市第10回人民代表大会は「上海市少数民族権益保障条例」を可決し，この条例は少数民族の権利の平等を強調し，少数民族の宗教および風俗習慣を尊敬すべきこと，出版物やテレビや映画などでは少数民族への差別や侮辱などを絶対禁止するというような内容です。

また，参考になるのは，最近，上海市質量協会が「外国人の目から見た上海」と題した満足度調査の結果を発表したことです。７割以上の外国人が上海での生活や就業を望んでいることがわかりました。同調査は今回が４回目です。調査対象者の出身国或いは地域は28に及び，前回と比べて９増えました。回答者412人中，６割が米国，英国，フランス，ドイツ，日本，カナダ，イタリアなど先進国出身で，過去最高の人数となりました。[2)]

上海日本人学校　虹橋校

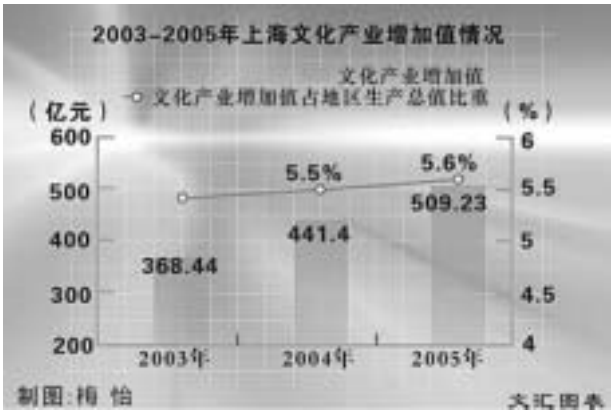
とは言え，上海の多元的文化政策は，社会の現実に対しては，まだまだ十分ではありません。これから外来人口の社会保障や子どもの入学などに適当な措置がとられるようですが，特に，今年９月13日，中国政府は『「第11次五カ年計画」期の文化発展計画要綱』を公表し，具体的に低収入者及び特殊な層の人々のために「文化特別保障」を提供し，国立博物館，美術館などの公共文化施設が，体が不自由な人たち，年寄りの人たちに無料や優遇入場料で開放され，中

央と省クラスのテレビ番組では手話番組を設ける措置などをとるということです。これは，上海市政府の「弱者の集団」へ配慮する多元的文化政策を促進するものであると思います。

3. 文化システム改革および文化産業の発展

この十何年来，上海は東方明珠タワー，上海博物館，上海大劇場，上海科学技術館，上海新天地，上海サーカスセンターなど，近代的な息吹に満ち溢れた新景観を創出したばかりでなく，「二つの祭りと四つの試合」（上海観光祭，中国上海国際芸術祭，上海国際陸上競技金賞競技会，F1中国賞レース，上海テニス選手権大会，上海国際マラソン）を催して，都市のソフトパワー作りに力を尽くしています。また，これからの上海が活力にあふれ，世界への文化的貢献を果たし，真に豊かさの感じられる都市となることを目指して，上海ではおおいに文化システム改革および文化産業の発展を推し進めており，すなわち文化事業と文化産業の限界を区分して，文化の輸入と輸出のバランスを取り，国のコンテンツ商品を輸出することにより，対外的に文化面での影響力を向上しようとしています。

以上述べてきたように，近年，上海では新興産業とされる創意産業は急激な勢いで発展を遂げてきたのです。上海は 2003 年，三年間の文化産業発展計画を作り上げ，文化サービス業を上海の近代サービス業における新たな成長分野と位置付け，創意産業は世間に注目され始めました。開発・デザイン，建築設計，メディア産業，コンサルティング，ファッションなど，消費の五大重点分野が形成されました。その中でも，開発・デザイン，メディア産業，コンサルティングといった 3 つの創意産業は急速に成長してきました。現在，上海文化サービス業の構成は，さらに国家と上海産業の構造調整，技術と業態革新の方向に合致し，各部分がいっそう協調とバランスに傾斜してきて，都市化の産業特徴をより良く表現できるものとなっています。2005 年，上海市の関係機構の統計によりますと，開発・デザイン，メ ディア産業，コンサルティング企画などの五大重点分野がすでに形成され，これよりさらに 38 類別，のべ 55 種類の業種に及びます。創意産業の年間付加価値も 549.4 億人民元に達しており，同年上海市 GDP （域内総生産）の 6 %を占めました。



2006 年，上海創意産業の発展を推進するために，上海市政府は 6 条の措置をとって，産業の健全な発展を保障しています。この 6 条の措置は主に政府の産業誘導の役割を改善して，各地区の創意産業の歩調を合わせて発展を推進すること，創意産業園の建設を引続き進めて，産業集積の形成を加速すること，各種の専門プラットフォーム建設の促進を加速して，産業サービス体系を構築すること，創意産業知的所有権の保護を完備し，産業発展環境を最適化すること，創意産業の人材育成と導入を加速して，人材集積高地を形成すること， 国内外の創意産業の交流を強めて，上海創意産業の影響力などを拡大する，ということです。

いまでは，上海は2010年の上海万博に向けて，さらなる変貌を遂げようとしています。2006年10月，上海市委員会代理書記，市長の韓正氏はデル社総裁兼最高経営責任者のケビン・ロリンズ（Kevin Rollins）氏一行と会見した際，「今後，上海の発展で，開放をさらに拡大し，開放の拡大を通して，発展を促進することになっている」と語りました。こうして，上海は都市文化の発展を引き継ぎ，チャンスとチャレンジに立ち向かっていくと思います。

注

1）2005年11月18日，西川長夫先生が上海社会科学院における講演「グローバル化の過程における公共圏の変容と〈新〉植民地主義」による。

2）中国「人民網日本語版」2006年 9 月12日。http://j.people.com.cn/2006/09/12/jp20060912_62973.html

参考文献

『中国の「第11次五カ年計画」期の文化発展計画要綱』，中国政府2006年09月15日。

王文英 蒯大申ら編：「上海における文化发展の青書」2003～2006年。上海社会科学院出版社2003～2006年。

「2005上海文化年鉴」，沪文年鉴2005年 9 月。

周ココ民：“城市形象与城市竞争力”，＜大都市形象论坛＞2005年 1 月15日。

孙逊：「大いに‘文化上海’を構築しよう」，「文匯報」2004年 8 月 5 日。

青木保「上海ソフトパワー論」，「中央公論」 4 月号，2002年 3 月。